

思い出と宝物を守るために

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

下岡 千紗

我が家では、毎年祖父から手作り野菜をもらうことが恒例行事になつてゐる。私が幼い頃は一緒に畑に入り、笑いながら収穫したものだ。今では家族で集う時間も少なくなり、郵便で野菜が届けられる。これが日常だと誤解していた。あの経験までは。

昨年のこと、いつものように祖父から郵便物が贈られた。しかし箱は軽く、開けても緑が見当たらない。手紙と菓子が入つていた。

「今年はトマトを育てたものの、全部萎れて不作でした。代わりにならないが、お菓子でもどうぞ。」

そう細いペンで綴られていた。

手紙を読むと、眉をひそめた祖父の顔が頭に浮かんだ。

ふとその時、テレビ画面が視界に入る。

「〇〇ダムの貯水量は過去最低記録に。今年は

異例の水不足です。」

はつと我に返り、気付く。

ニユースの中の話題だと思っていた。つまり異常気象を軽視していたということ。だがもう身近な人にまで影響が出ていたのだ。

この経験をふまえて、家庭用水を減らすべく、食洗機を活用したりシャンプーを適量使うよう努めてみると、家族で実践している。やはり水のありがたみを理解することが最重要である。美味しい料理、ペットの世話、健康の維持……。大概のものは水なしで成り立たない。無くなつてからでは遅いのだ。

私は今、祖父に恩返しをするために家庭菜園に挑戦している。水のありがたみを分かった今だからこそ、育てることに丁寧に向き合えているように思う。

今年こそ、水を通して祖父の笑顔を守りたい。そんな願いを込めて。